

ガイドダンスカウンセセラの挑戦 8

小中学校のガイドダンスカウンセセラの取組

山梨県甲州市スクールカウンセラ

ながおまさひろ
長尾雅裕

学習指導要領の「総則」の「第4児童（生徒）の発達の支援」1(1)に、

「学習や生活の基盤として、教師と児童（生徒）との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること。また、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイドダンスと、個々の児童の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセラングの双方により、児童の発達を支援すること。」とカウンセラングとともにガイドダンスが述べられている。

甲州市では二〇二一年に「確かな学力育成」プロジェクトが発足し、市内の小中学校十八校すべての児童生徒の確かな学力の定着や向上を目指した取組が始まった。河村茂雄先生（早稲田大学教授）の「Q・Uを活用しての学級集団づくり」の考え方に基つき、「学級集団を『支え合い、学び合い、教育力のある、質の高い集団』に育成すること、授業づくりや授業改善、保護者・地域と連携した取組を

進める」というものである。

十八校すべてに関わりを持つ市独自のスクールカウンセラ（以下、SC）がガイドダンスカウンセラとの役割も担うことで、学習指導と生徒指導とにバラバラに取り組むのではなく、学級集団づくりを基盤として統合的に取り組むプロジェクトに寄与できるものとして活動している。本稿ではその一端を述べたい。

1 毎月の学校訪問（定例訪問）での取組

(1) コンサルテーション・コーディネート
私の学校訪問は、月一回、半日程度が定例である。ここ数年は、教校以外は単学級の学校がほとんどである（複式学級もある）。単学級では卒業まで同じ級友との学校生活が続く。固定化した人間関係の中で生じるさまざまな問題により、児童生徒本人、また指導に当たる担任教師の困難な状況も見られる。そのような教室での問題にどのように課題解決に向かうか、具体的な行動レベルでの対応策の策定に、担任と児童生徒のリレーションの

確立状況を踏まえつつ支援を図っている。

私のガイドダンスカウンセラとしての活動は、基本的には、その日の日程の確認や児童生徒、職員、学校の状況等を、学校長やSC担当・教務主任・特別支援教育コーディネター等に話してもらい、前回訪問以降の変化（状況の改善・新たな課題）を確認することから始める。ほとんどの場合、全校の授業参観、休み時間・清掃作業・帰りの会の参観・観察等や、課題を抱えている学級の授業観察を行う。その後、児童生徒の教育相談や担任教師との面談、保護者との面談を行うことが多い。

もりだくさんの日程であるが、各学校の要望（課題）に応えること（子どもの発達課題、学校組織への支援、教師への支援、保護者・地域への支援）に努めている。

(2) アセスメント

甲州市ではすべての学校で、アセスメントの一つに、標準化された心理検査QIUを用いている。また、標準学力検査NRTもあわせて実施している。ほかにも学校独自に「いじめアンケート」や「生活状況調査」なども実施している。私は、困難を抱えている児童生徒の発見や学級集団づくりの方策立案、望ましい人間関係をつくるための活動計画、それらの児童生徒・学級・学校の情報を基に援助計画作成への援助を行っている。

また、特別支援教育や特別な支援ニーズをもつ児童生徒に対しては、例えば、WIS C・IVによるアセスメントの解釈・下位検査

の指標などから、どんな支援が大切かを担任と一緒に考える作業を行っている。

2 「学級経営・学級集団づくり」を推進 —個別・グループ対応

ガイダンスカウンセラー（教育カウンセラー）として「子どもたちが発達課題に取り組み、成長することを援助する」取組は、「育てるカウンセリング」と「学級経営・学級集団づくり」をメインに活動してきた。

いじめ・不登校・学力不振・特別支援教育等の個々の課題にはいろいろな要因が考えられるが、要因の一つとして、甲州市では、現在の子どものための「対人関係を形成する能力」の低下があるのではと考えている。

そこで、いろいろなグループ・アプローチに取り組んでいる。学級での課題や学校全体の課題などへ問題解決や人間関係の促進に関わるプログラムの提供やアドバイスをする。

例えば、構成的グループエンカウンター（SGE）を、一年間の教育活動の中に位置づけて、学級や子どもたちの状態に応じて展開している。A中学校では、「リレーションのある学級づくり」のためのエクササイズを年間を通して実施している。「グルグルエンカウンター・トキドキエンカウンター」と称して、なかでも「グルグルエンカウンター」の取組は、学年の教師みんなが、帰りの会の時間に学級をスライドしてそれぞれのショー・トエクササイズを効率的に実施している。「親和的な学級」の形成に有効に働いている。

3 校長会に ガイダンスカウンセラーとして参加

校長会では、「育てるカウンセリングと子どもたち」「ガイダンスカリキュラム」「Q-Uによる学級集団の分析」等、学級経営に役立ててほしいと思うものの資料や情報を提供し、学級経営に関して学校全体でチーム対応できる学級経営のサポートに努めている。

4 さまざまな支援

特別支援教育、学習支援スタッフ等学習会、不登校・いじめへの対応、校内研修会、新研究主任・転入職員等対象の「Q-Uの学習会」、生徒指導担当者会（地区）の研修会等である。

5 子ども・教師・学校の身近にある ガイダンスカウンセラーとして

学級集団や児童生徒の抱えている困難さ、学級経営上の悩み、教師個人の悩み等、面談を通して、心が軽くなったり、自信を取り戻したり、勇気が湧いてきたりすること。次への取組への意欲が出てきて、次への実践につながるものが何よりである。

ガイダンスカウンセラーである私との関係の中で、自分を開いてさまざま悩みや困難さを話してくれる教師も増えている。自分への気づきを行動変容へ向けてこれからどうすればよいのか、教師自身から助言や支援を求められることも多い。

ガイダンスカウンセラー役割のスクールカ

ウンセラが、市内の全小中学校に関わることで、子どもの発達課題に関して力を発揮できる。また、校長会に参加することで、予防・開発的カウンセリングやガイダンスカウンセラーの立場から学校長に具体例を提示し、学級経営の基盤づくりに役立てていただけている。

甲州市の教師は意識も高く、各学校の教育実践をより高めようという雰囲気がある。変わるべくは子どもではなく教師自身であるという自覚が芽生え、今まで以上に学級経営への真剣な取組につながっている。それは、Q-Uの活用から学んだ親和的な学級集団と同じように、自分たちの学校を、チームワークがよく、支え合い、学び合い、高め合う、親和的で建設的に連携し合う教師集団としての風土ができていくからだと思う。

今後も、学級経営に関して支援・アドバイスをすることが日常的にあるので、予防・開発的な教育のあり方や子どもたち個々の発達課題の達成をサポートしていきたい。

参考・引用文献

- ・石隈利紀・藤生英行・田中輝美編『生涯発達の中のカウンセリングⅡ（子どもと学校を援助するカウンセリング）』サイエンス社、二〇一三年。
- ・河村茂雄編著『教育相談の理論と実際（よりよい教育実践をめざして）』図書文化、二〇一二年。
- ・スクールカウンセリング推進協議会編著『ガイダンスカウンセラー実践事例集』学事出版、二〇一三年。